

多様な<体験>と<感動>が
好奇心を育てる！その②

*

夏休みは<SA子ども教室>グループが
一番活躍するとき！

いつでも、どこでも、笑顔でチャレンジ！



■宣伝活動にぜひご支援を！地域・学校をご紹介ください。



申し込み状況

★6月27日の集計（高橋様担当）を報告します。

A7階ホール・ドラで遊ぼう

親子30組（60名）

B302号・見えない気体 11名

C303号・ドラモクモク 26名

D304号・液体窒素 17名

E305号・10円玉 6名

F306号・おりぞめ 16名

G301号・エコカメラ 32名

Hクラス・もしも原子 12名

合計150名（180名）

★申し込みバラツキがあるため、教室を変更します！

①Aクラスは、昨年通り7階ホールにします。昼食後の移動が大変ですが、今までやってきたことなのでできると思います。

②Gクラスのエコカメラ作りは、307号から301号へ変更します。301号は普段高大では55名で利用しています。

③307号は、<スタッフルーム>と<救護室>とします。

★AクラスとGクラスは締め切りました。他のクラスは定員になるまで宣伝活動にご協力

下さい。★7階ホールの実験は、親子で60名となります。<ドライアイスで遊ぼう>の実験！このクラスのスタッフに<SA・子ども教室OBG会>から数名に入ってもらって



はどうかと思っています。佐藤様と高松様、そして皆様の判断で決めていきます。

●昨年まで佐藤和次様は「全体運営リーダー」として活動していただきましたが、今年は<エコカメラ作りの実験講師>のためそれができません。それも含めて、<SA・子ども教室OBG会>にどのように関わっていただくのか検討させていただきます。

■高砂教室（麦倉講師）でもくもしも原子…>と「空気の分子模型作り」

子どもたちの評価（6月24日）

37人参加で、27人が感想（時間オーバーでゆっくり書く時間を取れていません…）

★楽しかったか 5…18人 4…8人 3…1人

★分かったか 5…12人 4…13人 3…1人 2…1人

★子どもたちの感想 ・おどろいたことが、たくさんあった。・お母さんたちに見せてあげたいです。・お母さんがそんなことをおぼえてしまったのかとびっくりするほどわかりました。・原子はどこにでもあることがわかりました。・すごくドキドキして楽しかったです。・ぜんぶ原子でできていると分らなかつたけど、分かった。いい原子とか、わるい原子とかあった。いろんな原子があった。・原子が小さいけど、いろんなところにあると分かった。とても速いスピードで動いていた。・分子のしゅるいがありすぎておぼえられなかつたけど、でた8しゅるいはおぼえられました。・原子には、いろいろなしゅるいがありました。原子には、118しゅるいあるそうです。今回は、8しゅるいおぼえました。もっとおぼえたいです。

●どこで授業しても大歓迎のくもしも原子が見えたなら>。この授業は科学教育入門の基本！一人でも多くの子ども達に体験してもらいたい！この夏もチャレンジです。（音田）

◆一本道をまっしぐらに走るのなら、そこには序列がつきます。そして先頭の人も迷わずみんなをひきつれて走ることができます。しかし道がなくなったらどうしたらよいのでしょうか。自分たちで道を開くのです。銘々各自のいいと思う方向に道を開いていくのです。「いばらの道」といい、「ほとんど先が見えない」というと、その道を開く仕事はとても苦しいだけのように思えるかも知れません。しかし、そこには開拓者の喜びがあり創造のたのしみがあることを見落してはなりません。その道を開く意欲は、創造のたのしみ、開拓者の喜びを知っているものだけがいだきうるのです。きめられた一本道をつっぱしる教育、それは「できる授業」「わかる授業」だけでもすみます。しかし自ら道を開くための教育となったら、道を開くたのしみを教える「たのしい授業」以外にはありません。こういふ、「そういうたのしい授業が必要なのは大学か大学院でのエリート教育だけで、小中学校などはいままでどおりのかけこ教育でいいのではないか」という人がいるかも知れません。しかし、その考えのまちがっていることはいまの日本の教育界の混乱をみてもわかります。一本道をまっしぐらに走ることになれてきただけの人、いきなり「ここから自分で道を開け」といわれても、ただとまどうより他ないからです。すでに人の開いてきた道をすすむにも、たのしみながらすすむことができはじめて、新しい道をみずから切り開く喜びもわいてくるのです。板倉聖宣・理学博士